



# 「できる人が できるときに できることを」

学校のニーズに応えてこそ！  
その真価が！



むつ市立第一川内小学校 学校支援ボランティア<せきれい会>

## この取組を紹介したわけ

むつ市立第一川内小学校は、明治6年第3中学区川内小学校として創立され、明治43年には校歌が制定された歴史と伝統のある学校です。住民の教育に対する意識が高く、もともと学校に対して惜しみない支援をしてきた地区です。

今、第一川内小学校の地域のボランティアによる学校支援は、導入期・構築期を経て安定期にさしかかっています。その原動力となったのが、「学校支援ボランティア<せきれい会>」です。せきれい会は、しっかりとした設立・活動目的をもち、学校を主体に据えた活動を展開しています。今回は、その活動のおおよそを紹介していきます。

## このような活動です

### ☆教育ボランティア



算数ドリル丸つけ



漢字ドリル丸つけ



手話教室

※コース別学習の丸付け、クラブ活動・各種教室（絵画・俳句・習字・陶芸・音楽・川柳・絵画・読み聞かせ・手話・リズム体操）の講師・支援・補助 など

☆給食ボランティア 給食準備や配膳のお手伝い（特に春先の低学年に配置）

☆環境ボランティア（シルバー世代） 雪囲い、樹木の剪定・管理支援

☆人材に関する情報提供・依頼

☆安全ボランティア 地区の方々に機会あるごと、買い物をする時間、新聞配達的区域などで子どもたちを意識して見守っていただくようお願いしています。



下北地区

## ☆学習アシスト



まち探検時の安全サポート



学校畑の指導・支援



すくすくと育ちました

今年度、川内地区学校支援本部・川内地区地域教育協議会主催で「自然観察と仲間づくり体験学習会（交流会）」を企画し、事前に参加予定ボランティアが集まり2回の打合せを行い、万全の体制で10月4日（土曜日）に次の活動をしました。



第1部 自然観察会



第2部 料理体験交流会



第3部 ゲームで交流

## このように進めています

学校支援本部事業 “川内地区学校支援地域本部”

教育ボランティアの募集からその対応までを例にして

- ①コーディネーターが、算数・国語コース別学習の協力をお願いします。  
(支援可能日の登録)
- ②コーディネーターが、登録者に対して事前説明会を実施します。
- ③教務主任より1か月ごとに各学年の実施曜日をコーディネーターに連絡（月末）
- ④コーディネーターは、ボランティアの方々と出席可能月日を調整します。
- ⑤コーディネーターは、日程調整後、各日の参加者等を学校及びボランティアの方々に連絡をします。
- ⑥ボランティアの方々は実施日、開始時刻10分前までにボランティア室に集合します。  
(教務主任、学年の担当者と事前に問題プリントを確認)
- ⑦コース別学習（発展・定着・補充コース）の定着コースの各教室へ行き、支援をします。（1クラス3～4名のボランティアを配置し、子どもたちの解答への丸付けをします。誤答箇所は、担当の先生の指示をもらうよう促します。）
- ⑧終了後、ボランティア室に集合し、反省会をします。



下北地区

※月ごとのコーディネーターの勤務日の一覧表が先生方に配られます。



年間の予定表→

学年	月	日	勤務	内容
1	11	1	勤務	教科書の貸付
1	11	2	勤務	漢字・算数基礎・文法
1	11	3	勤務	分動のたし算と引き算
1	11	4	勤務	立方体と立方体
1	11	5	勤務	漢字・算数基礎・文法
1	11	6	勤務	算数
1	11	7	勤務	漢字・算数基礎・文法
1	11	8	勤務	算数
1	11	9	勤務	算数
1	11	10	勤務	算数
1	11	11	勤務	算数
1	11	12	勤務	算数
1	11	13	勤務	算数
1	11	14	勤務	算数
1	11	15	勤務	算数
1	11	16	勤務	算数
1	11	17	勤務	算数
1	11	18	勤務	算数
1	11	19	勤務	算数
1	11	20	勤務	算数
1	11	21	勤務	算数
1	11	22	勤務	算数
1	11	23	勤務	算数
1	11	24	勤務	算数
1	11	25	勤務	算数
1	11	26	勤務	算数
1	11	27	勤務	算数
1	11	28	勤務	算数
1	11	29	勤務	算数
1	11	30	勤務	算数

コーディネーターがいる日がわかるので、先生方が気軽にボランティア室を訪れて、学習に必要な人材探しや学級の支援等のいろいろな相談・依頼ができます。

※実益を考え、面倒な文書のやり取り等は極力なくしています。



学校にボランティア室ができました。  
おじいちゃん、おばあちゃんも気軽に立ち寄って、語り合い、地域の子どもたちに目を向けていただけるような、明るく笑顔があふれる、楽しい空間になっていければと願っています。

★地区のみなさんに配ります。



ここが聞きたい 答えします

- Q： 授業などで必要な人材探しに困ることがよくあります。そんな相談にもものっていただけるのでしょうか。どの辺まで頼んでよいのでしょうか。
- A： 原則的には学校・先生方のニーズに対応していくことが可能です。ただ、急な依頼やあまりにも専門すぎることには対応できない場合もあります。任せっきりにならないよう相談の際に話し合っています。
- Q： コーディネーターがいません、探せないのです。どうすればよいのでしょうか。

A： 急をお願いしても無理です。活動の中で徐々に育てていく。ほとんどの学校で何らかの形で学校支援が行われています。そこには実質的にコーディネーター役をしている方がいるのですが、意外とその意識がなく本人は気がついていないのです。その人にどうアタックしていくかです。誠意と熱意は必ず伝わります。

Q： ボランティア室ができてどうですか。

A： ボランティアと先生方が直にコミュニケーションがとれるようになり、壁がなくなりました。活動拠点ができ、いろいろなアイデアが生まれるようになりました。

## これまでのみちのり<学校支援のボランティアの導入について>

平成12年当時の校長から、公民館で実施していたサークル活動の内容を学級の子どもたちを相手に行って欲しい旨の相談がありました。学校に講師（ゲストティーチャー）を招いて、川柳教室・手話教室・読み聞かせ教室・音楽教室・陶芸教室・絵画教室・サケの稚魚放流・俳句教室等を行ってきました。このゲストティーチャーが発展して、現在の学校支援の形が形成されてきました。

平成17年度から3年間文部科学省「学力向上拠点形成事業」の研究指定を受け、コース別学習の丸付けを中心にした活動が始まりました。学校支援ボランティア<せきれい会>は、PTAではなく地域住民であること、(できる人ができるときにできることをする。)、あくまでも自主的に活動すること、秘密は守ることなどを、基本理念として発足しました。そして、現在に至り、次へ円滑に引き継いでいける基盤も整っています。

学校支援ボランティア<せきれい会>は、明確な規定を設け活動しています。

<設立目的> 開かれた学校づくりの基本理念に基づき、学校の教育活動に地域の教育力を生かすことができるよう、地域人材や団体、企業等がボランティアとして学校をサポートする活動を推進する。

## この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

### <教育ボランティアの導入による成果>

- ・難しい問題にもチャレンジさせることによって、学力も向上しました。
- ・地域の教育力アップにもつながっています。
- ・学級に教育ボランティアが入ることによって、教職員の意識が変化しています。
- ・いつもボランティアの控室として、校長室を利用していたので、ボランティア室を設置し雰囲気を和らげるよう学校側でも対応してくれました。

(平成20年度念願のボランティア室開設)

### <活動中での課題への対応>

- ・児童は座ったままで、ボランティアの方に丸つけにまわってもらうことのほうが、時間いっぱい児童の集中力がとぎれることなく、数多くの問題に取り組ませることができるのではないかと案により方法を変更しました。
- ・学力テストの結果で落ちている部分の対応について、ゲストティーチャーや教育ボランティアの活用をさらに図りたい。





# 小規模校の特性と学校の立地環境を 生かした年間を通じた取組

子どもは地域の宝、地域総ぐるみで、  
学校教育活動の応援を！



むつ市立第二川内小学校

## この取組を紹介したわけ

むつ市立第二川内小学校は、昭和40年银杏木小中学校と小倉平小中学校を統合して、第二川内小中学校として創立されました。(昭和55年第二川内中学校閉校)

学校は银杏木、安部城、上小倉平、下小倉平の4地区からなり、学区の中央に位置し、山と川に囲まれた広々とした田畑の中に建っています。

現在、児童数は15名(6年2名、5年5名、4年4名、2年3名、1年1名)で、創立当時の10分の1程度まで減少し、児童がいるいないに関わらず、地域の全戸がPTAの会員となって学校を支えています。

学校では体験活動を重視し、学区内の各地区、個人から活動の場所を提供いただき、恵まれた環境の中、地の利を生かした様々な体験活動を地域の方々の全面的な支援のもと実施しています。また、学校周辺の環境を生かし、以前から冬期間は体力づくりの一環として、クロスカントリースキーに取り組み、多くの大会で輝かしい成績を残しています。小規模校ながらも下北のスキーの名門校でもあります。

この学校の自然環境を十分に生かした多彩な活動を紹介します。

## このような活動です

第二川内小学校では、1年間を通して、学校の立地環境を生かした活動を地域の方々の支援のもと行っています。その中の主な活動を追ってみます。

以下の活動の◎○●の印は次の意味です。

- ◎：支援を受け子どもと一緒にする活動
- ：大人や地域の方々に頼み、やっていただく活動
- ：子どもたちで行う活動



◎校地の整備作業(5月)



◎ワラビ折り(6月)

『稲作』、『そば栽培』、『じゃがいも栽培』は総合的な学習の時間、生活科の学習のまとめとしての『二川っ子タイム発表会』で活動を発表しています。



田植え（6月）



稲刈り（10月）



もちつき（2月）

『稲作』（◎○●は年度の計画により異なることもあります。）

4月稲作田んぼの借用、講師依頼（校長、教頭）

○5月田おこし、苗作り→◎6月田植え→●水管理（指導を仰ぐ）→●7月草取り（指導を仰ぐ）→◎8月稲刈り→◎脱穀（●藁運び）→○精米→◎餅つき会（スキー大会と併せて実施します。）もち米のみを作付けしています。作付け面積は2畝（約200㎡）で、今年度は100kg収穫量がありました。



そば植え（8月）



そば刈り（10月）



そば脱穀（10月）



そば切り会（12月）

『そば栽培』

5～6月種集め、畑借用（地域・父母に相談）→●6月土作り→◎7月植え→◎畑管理→◎10月刈り取り→◎脱穀、ごみ取り→●そば粉作り（精粉）→◎12月そば切り会



下北地区



じゃがいもの植付け（5月）



低学年は1人1畝（うね）



いも掘り（8月）

### 『じゃがいも栽培』

- 4月畑おこし、畝づくり→◎4月いも植え（一人一畝）→◎5月中旬以降草取り→
- 6月芽かき（やり方を家の人に聞いてくる）→◎7月土寄せ→◎8月いも掘り→
- ◎調理（給食で使っていただくものもあります。）



◎栗拾い（9月）



◎於法岳登山（10月）



◎陶芸教室（11月）

栗拾いは、地区所有の土地を解放いただいています。於法岳登山では、P T Aの主催で子どもからお年寄りまで楽しい1日を過ごします。また、当地域には陶芸の施設があり、陶芸教室として子どもたちに指導していただいています。

この他に、キャリア教育として卒業生を講師に招きお話をいただく『ようこそ先輩』、P T Aの協力による『除雪』等で地域の支援を受けています。また、本校学区内にある特別養護老人ホーム『せせらぎ荘』との交流も行っています。

### このように進めています

前記の活動は、長い歴史があり安定した取組になっています。これらの活動を進めるにあたって、概ね次のようになります。

教育課程の編成期、次年度の生活科や二川っ子タイム（総合的な学習の時間）の計画を立案し、主担当をじゃがいも栽培は低学年、そば栽培は中学年、稲作は高学年とし、それぞれの担当者が地域の関係の方々との段取りや日程調整を行い、全体の取組にしていきます。

基本的な依頼や道をつけるのは、校長・教頭が行います。活動を推進するための大きな力は、相互の信頼関係と地域に開かれた学校としての在り方だと考えています。



## ここが聞きたい 答えします

- Q： 地域と連携して、多くの体験活動が行われていますが、授業時数の確保の問題はどうでしょうか。
- A： 基本的には、低学年が生活科、他は二川っ子タイムとして総合的な学習の時間の中で実施しています。
- Q： 自然との関わりが多い活動ですが、一番苦勞されることは何ですか。
- A： それは何ととっても天候です。地域の講師の方と実施に当たり担当が日程調整を行います。当然、雨天も考えられますので、2、3案という形で打ち合わせをします。また、中には悪天時の代替の活動で臨むものもあります。
- Q： いろいろと地域の方々から、ご支援をいただいておりますが、お礼のようなことはしていらっしゃいますか。
- A： 稲作を例にとりますと、収穫したもち米を『二川米』と命名し、5kgの袋に手作りラベルを貼り、地主さんなどに届けています。普段は、感謝やお礼の気持ちを子どもの感想文や学校だよりを通して伝えたり、行事等にお招きし子どもたちと大いに交流していただくことです。子どもたちが元気に頑張っている生活していくことが一番のお礼だと考えています。

## これまでのみちのり

学校周辺の環境とこれまでの取組から、昭和54年小学校モデル学童農園の指定を受けました。地域の方々のお力をお貸しいただき、畑作を教育活動の中に生かす取組をしてきました。平成4年には体験学習として田植えを実施し、平成9年にはしばらく途絶えていた全校そば切り会を復活させ、要所要所で子どもの実態に合わせ見直しをし、現在のような取組にいたっています。

学校の重点として、学校と家庭、地域社会との一体化を掲げ、学校が家庭や地域と相互に信頼を深め、家庭や地域の教育力を生かすため、それぞれの役割を理解し合い、積極的に連携できるよう努めています。子どもたちには、体験活動の中から学んだことを自分たちの生活や生き方に生かせるよう、地域の素材や人材と関わりに重きを置いてきました。

## この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

これらの活動が、いろいろな地域の方々からの支援や好意で成り立っていることを直接感じることができ、感謝する心とか協力態度が活動を重ねるごとについてきています。また、これらの活動が、地域や家庭内での共通の話題となることが多く、和と円満の糧になっています。

地域の方々との触れ合い、関わりを多く持つことによって、仕事に取り組む人々の真剣な姿勢、地域のよさを素直に受けとめることができるようになってきています。

少子高齢化で体験活動の運営が難しくなっていますが、地域そのものが生かされた第二川内小学校の特色ある活動として、その困難さを乗り越え、地域の方々と一層連携を深めながら、共に継続実施していきたいと考えています。







# 学校と地域が相互に支え合い、 ともに歩む

みんなの力を結集し、  
大輪の花を咲かせています！



むつ市立二枚橋小学校

## この取組を紹介したわけ

二枚橋小学校は旧大畑町（現在むつ市大畑町）の中心より北西3km程に位置し、山を背に海に面した国道279号線より坂を登った津軽海峡を見下ろす小高い丘の上にあります。大畑道、二枚橋、釣屋浜の三地区を総じて「二枚橋」と呼んでおり、戸数は190戸程で全戸がPTA会員になっています。

もとは地区のほとんどは漁業を生業としていましたが、その数は年々減少しています。母親は加工場や商店、縫製工場などに勤め、共働きの家庭が増えています。

今年度の児童数は12名、3学級で、1・2年（1・5名）、3・4年（1・1名）が複式、6年（4名、5年生はなし）の編制です。少人数の特性を生かした合同学習・異学年縦割り集団活動や総合的な学習の時間等を通じて、地域の方々から支援・協力をいただき大きな教育効果をあげています。

ここ数年、全校での合唱に取り組んでおり、10数名の全校児童で地区予選を通過し、県大会、さらに上の大会へ出場しています。当然、学校の指導がありますが、その背景には保護者や地域の方々の存在が大きく影響しています。（平成18年度、子どもたちが保護者や地域の方々から温かく見守られ少しずつ成長する姿を追った番組『歌って大きくなれ』（54分）がNHKで放送され全国で大きな反響を呼びました。）

## このような活動です

総合的な学習の時間や行事を通して、地域の方々と交流し、地域の教育力の活用を図っています。その中の主な活動を紹介します。



学校保健委員会と学校安全委員会をあわせ、「すこやか委員会」として7月の参観日に実施しています。生活習慣や食などを題材として、共に健康を考える取組をしています。写真は、昨年度、婦人会や大畑食生活改善グループの支援を得て、地産食材を使った調理実習を行っているところです。



下  
北  
地  
区



外部から指導者をお招きして(左)

教科の分野の中には、より技能や専門性が要求されるものもあります。子どもたちの指導にあたり、より教育効果をめざして、外部の指導者の方に、指導をお願いしています。写真は、習字の指導を受けているところです。

わくわく広場 (右)

当地域でも年々共働きの家庭が増えてきています。子どもたちの放課後の安全・安心な居場所づくりが課題でした。設置の経緯は『これまでのみちのり』を参照してください。読み聞かせ、紙芝居、お茶、昔遊び、踊りなど楽しい企画・内容でいっぱいです。



サケの稚魚の放流 (左)

地元の漁業協同組合の支援を受けて、毎年4月にサケの稚魚放流体験を実施しています。さけ・ます孵化場に出かけ、その仕組みを学習します。その後、稚魚をいただき、大きくなって帰ってくることを祈って、近くの川に放流しています。

網おこし体験 (右)

この地区は漁業を生業の中心としてきました。今では、不漁や後継者問題などで年々その勢いを失っています。そんな中で、子どもたちは漁業の体験をすることはほとんどありません。地域の漁師の方の支援でこの体験を行うことができました。



敬老会 (左)

子どもたち・学校が足を運び共に楽しいひと時を過ごします。笑顔っていいですね！



学芸まつりの1シーン(右)

地域の方、卒業生、保護者、教職員、児童がそろって合唱をします。観客を魅了するすばらしいハーモニーです。



今年度は11月16日実施





年縄づくり (左)

地域のお年寄りの方々をゲストティーチャーにお迎えして、総合的な学習の時間に稲わらを使って、年縄づくりをしています。実施の時期は11月で、できたものは、家へ持ち帰り、また学校のその年の注連飾りとして使っています。

餅つき体験学／べこ餅づくり体験学習 (右)

毎年、2月に地域の婦人会や老人クラブの方々の支援を受け、餅つき体験とべこ餅づくりを交互に実施しています。明るい元気な笑い声と笑顔の中、和気藹々に進みます。手作りのお餅の味は格別です。



## このように進めています

### 【地区と学校をあげて行う「学芸まつり」を例に】

事務の中心は、学校と地域を結ぶ窓口教員である教頭です。

- ①学芸まつり実施にあたって、地区の関係団体長、関係者に運営会議の開催案内を発送します。(町内会長、PTA会長、校長の連名で)
- ②「運営会議」を開催し、今年度の学芸まつりの方向性を話し合います。  
(参集 学校・PTA・町内会・婦人会・老人クラブ・睦会・子ども会 他関係者)
- ③運営会議を受け、当日の係の依頼、合唱への参加依頼、種目への参加希望有無、懇親会のお知らせ等を、全戸に配布します。
- ④11月に入ると各団体、参加者が、放課後学校へ出向いて、準備・練習をするようになります。
- ⑤二枚橋・釣屋浜「学芸まつり」本番
- ⑥学芸まつり終了後、反省・懇親会を実施します。



### 学芸まつりプログラム

順	出演者	演目	内容	時刻
0	八戸 児童	集会の言葉 (町内会長)		9:00
1	1・2年	挨拶	オープニング	9:05
2	婦人会	踊り	「ネプチューン」	9:08
3	児童 親子	踊り	「風船船」	9:11
4	全校	演劇	「よさこいソーラン」	9:20
5	P.T.A.	踊り	「秋田けんぼん舞」	9:25
6	児童 親子	歌	「大船歌謡」	9:32
7	婦人会	踊り	「舞」	9:32
8	全校	体育	「2008ニハチオンピック」	9:42
9	婦人会	踊り	「花の手拍子踊り」	10:00
10	PTA・児童	歌	「大船歌謡」「大船歌謡」他	10:15
11	川島 親睦	挨拶	校長挨拶	10:25
休 憩 3分50秒				
12	児童 児童	踊り	「富士」	10:55
13	児童 児童	お話	「さっちゃんの家ぼうの季」	11:05
14	中3次	歌	「高船心」	11:08
15	全校	踊り	「わふたソーラン」	11:18
16	婦人会	踊り	「日本舞踊」	11:22
17	PTA・手	踊り	「むつ滝大船唄」	11:25
18	婦人会	踊り	「学芸音頭」	11:28
19	全校	演劇	「こいのぼりくん」(祝歌)他	11:48

順	出演者	演目	内容	時刻
20	児童 児童	高船	「祭り囃子」	11:53
21	3・4年次	踊り	「高千穂」	12:05
22	老人クラブ	踊り	「これから音頭」	12:41
23	婦人会	踊り	「舞いの門出」	12:47
24	婦人会	踊り	「ほぐれコキリコ」	13:53
25	全校	歌	「タビる」	13:59
26	5年次	挨拶	親わりのあいさつ	14:45
27	全員	踊り	「大船音頭」	14:50



学校での活動の様子は、毎月の学校だよりを通して全戸配布(校長・教頭が直接各戸を訪れ渡すときもあります。地域全戸がPTA会員になっています)しています。

また、地域とともに歩む学校として、年度のはじめには、学校の教育活動を理解していただく一助として、学校要覧『学びの丘』も地域全戸に配布しています。

## ここが聞きたい 答えします

Q： テレビの取材などが日常的に入った時期があるようですが、子どもたちの大きなプレッシャーになりませんでしたか。

A： 最初は、そのことが懸念されましたが、取材する側、される側とも、相互に趣旨を理解して向かいましたので、ほぼ、自然体で進みました。子どもたちにとっては、よい刺激・効果になったと思います。

Q： 「わくわく広場」について、教えてください。

A： 学校で放課後実施しています。詳細については、下記を参照ください。

## これまでのみちのり

☆「学芸まつり」について

「学芸まつり」は平成16年度にスタートし、今回で5回目を迎えました。それ以前は、学校では学習発表会、地域では芸能発表会がそれぞれ行われていました。当地域も過疎化の波の中にあり、その運営等が難しい状態にありました。そこで、もともと芸能発表会には学校の児童も参加してきたこともあり、より効果的で良い形で取り組みが進むよう、学校、地域、関係団体が話し合いを行い、一本化し現在のような『学芸まつり』という形で進むことになりました。

☆「わくわく広場」について

平成18年秋、新入児保護者、地域住民を対象に「二枚橋小学校のこれからを考える会」が開催され、前向きな意見交換がなされました。その中で共働きで夕方でない保護者が帰宅しない家庭にとって、放課後の子どもの安全・安心な居場所が確保されない問題が出されました。(学童保育について、人数的に設置基準を満たさず。)

それを受け、学校としてその対応策を校長を中心に考えました。(地区ボランティアを募って、放課後子どもたちと触れ合っていただく。)

平成19年春、児童が放課後学校で過ごせる「わくわく広場」という名称でスタートしました。地域に対して、機会あるごとにボランティアについての理解・協力依頼をし、当初は、家庭と連絡を取り合い、1年生の担任、養護教諭、技能員、校長、教頭が日替わりで放課後2時間ほど過ごしてきました。6月に入り、学校評議員や町内会長、読み聞かせサークル等の支援を受けています。

今年度は「放課後子ども教室」の事業として、本校を会場に実施しています。

## この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

学校の特色が何であり、それがどう生きる力につながっているのかを、家庭や地域住民に対して、機会あるごと理解を求めていく必要があります。

地域の人材や教材を活かした活動の成果が現れてきており、特に『すこやか委員会』は、児童の生き生きした活動を保護者や地域の方々に見てもらおうと同時に意見交流などもでき充実してきています。

当地区では高齢化が進み、現PTA以外の働き盛りの人々の関心をどう学校に向けさせていくかが大きな課題となっています。



下  
北  
地  
区

# 地域の方々が子どもと先生の応援団に…

やさしいことばと  
温かい雰囲気の中でやる気満々！



むつ市立第一田名部小学校 一田小教育応援団

## この取組を紹介したわけ

むつ市立第一田名部小学校は、下北で最も歴史と伝統のある学校で、常に下北の教育をリードしてきました。

この学区は、もともと経済・文化の中心地という土地柄で、教育に対する関心が高く、PTA活動がOBを含め盛んで、以前から学校の諸行事等に対して活発に支援が行われています。

平成18年度後半より学校と地域双方のメリットと一層の教育効果をめざし、地域のお年寄りによる「一田小教育応援団」を組織して、現在は丸付けボランティアを中心に据えた取組をしています。

「一田小教育応援団員（学校支援ボランティア）」は、自分の特技や趣味・嗜好などから、自分にあった活動を無理なく行うことを大前提にしています。子どもたちは、先生方以外の地域の大人との触れあいを大変楽しみにして、自分から学ぼうという意欲の向上が見られています。現在も、腕章パトロールやまだ回数は多くないですが、草刈り、木の剪定等も行われています。「一田小教育応援団」は、今後、学校が必要とする分野への拡大の要素・可能性を多分にもっています。

導入して間もない、「一田小教育応援団」について紹介します。

## このような活動です

丸つけボランティアの紹介をします。



5・6校時の2枠で丸付けを行います。集合時に打ち合せ、5・6校時の業間、終了後に反省、情報交換を行っています。



対象の学年が、3つに分かれます。それぞれに3～4名のボランティアの方がついて、ドリルの丸つけが行われます。「よくできたね!」「がんばったね」「もう一回確かめてみてね!」やさしい言葉がけがなされます。子どもたちは、温かい雰囲気の中で、よい表情で集中力を切らさず取組を続けます。担任の先生は、特に支援の必要な子どもたちに関わるので、非常に効果的な時間となります。

## このように進めています

学習指導・研修部より出された、今年度の丸つけボランティアについて

平成20年度 ○つけボランティア実施計画 学研部

- 1 おらい
  - ・○つけボランティアを活用して計算力を高める。
  - ・地域の方々へ学校の取組を理解してもらい、信頼関係を築いていく。
- 2 日 時 火曜日5校時・6校時
- 3 対 象 2年～6年
- 4 教 科 2年…算数  
3年～6年…『総合的な学習の時間』の基本知を確認する時間
- 5 ○つけボランティアの協力内容
  - ①学習開始時刻の10分前には校長室に集合し、担当者(高橋)と事前にプリントを確認する。
  - ②子ども達が解答したプリントの○つけを行う。
  - ③解答箇所については、クラスの先生に教えてもらうように指示を出す。
  - ④子ども達にとっては「先生」としてふるまう。(いけないことはいけない、など)  
※清掃時間は校長室で休んでもらう
- 6 役割分担
  - ・○つけボランティア担当者の交渉・「月日、学年、時間」の連絡・・教頭
  - ・○つけボランティアの担当教室の割り振り…教頭
  - ・○つけボランティア用のプリントと解答用紙の準備…各学年→高橋
  - ・プリントと解答用紙の説明…高橋
  - ・準備物(赤ペン)…高橋
- 7 日 程

	6月17日	7月8日	8月26日	9月16日	11月25日	1月20日	2月17日
5校時	3年	5年	4年	6年	3年	2年	3年
6校時	4年	6年	3年	5年	4年	6年	4年

今年度は6月から実施されました。学校の学習指導・研修部より左の実実施計画が出されました。

現在ボランティアの方は、30名程登録されています。毎回、12～13名の方が来てくださいます。

ボランティアの方は開始の10分前までに図書室に集合します。(当初は校長室を集合場所にしていましたが、準備等を考え図書室に変更。)

そこで、担当より事前にプリントの確認と留意事項が示されます。

来ていただいたメンバーを3チームに編成し、それぞれの担当教室や部屋に移動します。そこで、担任の先生と一緒に活動を開始します。終了後、再度、図書室へ戻り、情



下北地区

報交換・反省、次の時間の再打ち合わせが行われます。(5校時と6校時の業間に清掃活動等が行われます。)

6校時目は5校時同様の動きがあります。終了後は、全体を通して、反省・情報の交換及び次回の確認が行われます。

## ここが聞きたい 答えします

Q: 「一田小教育応援団」が組織される前の学校支援の状況を教えてください。

A: この地区は、昔からPTA活動が盛んで、PTAOBも含め学校に対して、非常に協力的です。特に運動会、スキー教室などの行事や部活動等多くの面で大変なお力添えをいただいています。

Q: 「一田小教育応援団」の募集範囲で、現役の一田小PTA以外の方で(概ね50歳以上の方々)とありますが、どのような理由からでしょうか。

A: 子どもとお年寄りのコミュニケーションの重要性と、お年寄りとの交流で子どもは大きく成長するという前提に立っています。また、PTAですと子どもとの関係が深すぎ、子どもの情報を守っていくという面でまだ難しさがあります。

Q: 「一田小教育応援団」に対するお礼などは、どのようにしているのでしょうか。

A: とりたててのお礼はしていません。一田小だよりで、紹介しています。

## これまでのみちのり

この地区は、もともと教育に対して関心が高く、協力的です。現校長は、前々任校、前任校において地域との連携を重視した教育活動に取り組み、その効果に十分な手ごたえを感じていました。現任校に異動し、実際に子どもたち・教職員や地区の方々と接し、話をする中で、学校支援ボランティアの方と学校教職員の力を結集することで、今以上の大きな力で第一田名部小学校の子どもたちを育てることができると確信しました。

そこで平成18年秋、組織立てた学校支援ボランティアを構築するため、当時の教頭を中心に、学校支援ボランティアとは、いまなぜ「学校と地域の協働(学校支援ボランティア)が必要なのか」、学校支援ボランティアを導入するメリット、考えられる「一田小教育応援団(学校支援ボランティア)」、「一田小教育応援団(学校支援ボランティア)」の募集の概要についての研究をし、学校と地域の協働(学校支援ボランティアの導入)は『手段』であって、『目的』は「より教育効果を高めること」であることを見失わないよう確認して、翌1月地域の方にお願ひし、試行を開始しました。

平成19年2月6日付けで「一田小教育応援団」の発足に向けて、この地域にある50町内に回覧板方式でチラシを各町内会長、各班長を介して配布し、回収にあたって町内会長、班長を介して応援団員募集の願ひをしました。



下  
北  
地  
区

募集の文書の中から

論文略

本校では、教育活動の更なる発展を期して、「一田小教育応援団（学校支援ボランティア）」を募集し、平成19年4月より、その活動を開始することにいたしました。ご存知のとおり、学校支援ボランティアは、青森県教育委員会の施策のひとつに位置づけられ、「子ども達のために設立したいという熱い思いを持って教育活動を支援するボランティア活動」です。

学校支援ボランティアと学校教職員の力を結集することにより、120%以上のパワーで、第一田名部小学校の子ども達を育てることができます。

申込書の文から

- ☆子どもと高齢者のコミュニケーションが双方の「脳」を活性化します。
- ☆高齢者との交流で子どもは大きく「成長」します。
- ☆高齢者が子どもの「脳」を育て、子どもを大きく「発展」させます。

一田小教育応援団で、「子どもと大人の脳が元気になります。」

第一田名部小学校において、初めての試みとなる「一田小教育応援団の組織」となります。応援団に過度のご負担はおかけしません。多数の応募をお待ちしておりますので、ご記入・ご提出にご協力をお願い申し上げます。

募集内容は次の通りです。

- ①募集範囲 現役の一田小PTA以外の方（概ね50歳以上の方々）
- ②内容 学習支援、外部講師、環境整備、施設保守
- ③活動日・活動時間 月1回程度 約90分

結果、30名程度の協力者があり、「一田小教育応援団員」として支援内容ごとに名簿登録しました。

さらに、平成19年3月8日に「一田小教育応援団」体験デイ（丸付けボランティア・見学）を実施しました。

**あなたの力を貸してください！**  
**一田小教育応援団員募集中！**

一田小教育応援団（学校支援ボランティア）とは、「子ども達のために校に立ちたいという熱い思いを持って教育活動や学校環境整備等を支援するボランティア活動です。学校職員と力を合わせると、120%以上のパワーで、第一田名部の子ども達を育てることができます。

今回の募集は、現役の一田小PTA以外の方々に譲らせていただきます。応募内容は、応募内容により異なりますが、概ね月1回、午後1時30分～分まで、平成19年8月下旬から開始したいと考えております。

下記のような「一田小教育応援団員」を募集しています。

<p><b>学習支援型</b></p> <p>子ども達の学習活動を助めるために教職員の手助けをします。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・予習、復習の〇つけ補助</li> <li>・特別な支援を要する子どもへの学習補助</li> <li>・教科学習の行事補助</li> <li>・家庭学習支援補助</li> <li>・読書学習の指導補助</li> <li>・読書の指導補助</li> <li>・保護者支援の補助</li> </ul>	<p><b>外部講師型</b></p> <p>自分の得意分野の力を生かし子ども達に指導します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の歴史学習指導</li> <li>・伝統芸能・民謡・舞踊指導</li> <li>・習字・書道指導</li> <li>・習字・書道の指導</li> <li>・パソコン指導</li> <li>・英語指導</li> <li>・英語指導</li> </ul>
<p><b>環境支援型</b></p> <p>学校内外の安全で快適な学習環境を整えるために活動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校内の除草作業</li> <li>・庭内の草刈</li> <li>・庭木の剪定</li> <li>・花壇の整備</li> <li>・花壇の草刈</li> <li>・校内外の清掃活動</li> <li>・校内外の清掃活動</li> <li>・校内外の清掃活動</li> </ul>	<p><b>施設保守型</b></p> <p>自分の得意分野の力を生かし、施設や設備の維持管理に支援します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一田小ホームページの作成、更新</li> <li>・校舎内の電気・水道の点検</li> <li>・パソコンの修理</li> <li>・校舎の点検</li> <li>・校舎の点検</li> <li>・校舎の点検</li> <li>・校舎の点検</li> </ul>

学習支援型、環境支援型、外部講師型、施設保守型のいずれも募集します。応募できる内容をご連絡ください。随時募集！

TEL: 22-1236【一田小 教職】 FAX: 22-5198【教職課】 ご担当【教職】  
 詳細はご確認ください。 お問い合わせ: 第一田名部小学校 教職 岡中文男



下北地区

この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

「一田小教育応援団」の皆さんから、活動後、色々な感想や情報を伺うことができ、普段の学習指導の参考にさせていただいています。導入して間もないので、その枠を広げていませんが、今後の活用枠は大いに広がる可能性を持っています。



# 『継続』それは学校と地域との連携推進の源

地域の支援が子どものパワーに  
学校行事が今では地域に定着！



風間浦村立蛇浦小学校

## この取組を紹介したわけ

風間浦村立蛇浦小学校は津軽海峡に面した海岸段丘からなる小高い丘の上にあります。創立は明治7年と古く、昭和62年3月までは中学校も併設されていました。近くには本州最北端の大間崎があり、漁業を生業としてきた地域ですが、最近では専業で生活を立てている家庭は少なくなってきています。

風間浦村立蛇浦小学校では、『勤労生産学習研究校』の文部省指定を受け取り組むなど、以前から特別活動に力を入れてきた経緯があります。

学校を取り巻く環境や要因から蛇浦小学校にとって、勤労生産体験活動は教育活動の中で大きな意味と役割を持っています。地域の生業のほんの一部ですが、子どもが直接体験できる機会を地域や関係機関の方々からいただきました。それが、教育活動を行っていく上での、大きな原動力となっています。

## このような活動です



ふのり採り（4月）

P T A、地域の方々、漁協の皆さんから支援を受け、収穫→ふのり洗い→漁協を経由して生ふのりを業者に搬入します。役割として、ふのり採りは全員で、運搬と洗いは教職員とP T A、計量はP T Aと漁協が行います。

当日は、温かい豚汁で、みんなそろって昼食を食べます。



田植え（5月）



稲刈り（10月）



餅つき会（12月）

学校田・かまや餅つき会 ※かまや：当地域の地名（釜谷）

風間浦村内で水田があるのは蛇浦地区だけです。地区の高齢化が進み、年々米作りをやめる農業者が増えてきています。学校田は蛇浦地区の方の所有で、その広さは600㎡、もち米を付け、今年度の収穫量は120kgでした。支援してくれる方は、地域の方（田の管理全般、田植え・稲刈りの指導）、役場、PTAの方々です。収穫した米は、かまや餅つき会、同志社大学留学生交流会に使用します。

『かまや餅つき会』は、例年12月に行われます。①地域の方への肩たたきをいれてのふれあいタイム ②みたらし団子やいそべ餅等いろいろな種類の餅づくり③地域の方との会食 という内容です。

『同志社大学留学生交流会』（2月）について、明治時代、新島襄が外国に渡航のため宮古から函館に渡る際、時化で下風呂に立ち寄ったのが縁で、平成4年度より風間浦村と同志社大学の交流が始まりました。それ以来、蛇浦小では留学生に日本文化を紹介する意味もあり、餅つき会を行っています。



学校畑

この活動では、子どもたちを地域の方々が畑づくりの土おこし等のしたごしらえ、堆肥の提供など側面から子どもたちを支えてくれています。また、全般的なアドバイスもいただいています。

収穫したものは、炊事遠足兼収穫祭の材料として使用し、また、学芸会時に地域の方々へ感謝の意味を込め提供しています。



これらの活動のほかにも、校地の整備、通学時の子どもたちの安全確保等にも地域の方々からご支援をいただいています。



下北地区

## このように進めています

どの活動も軌道に乗るまでは大変だったと思います。今では、回数を重ねてきていることもあり、すっかり道がついています。学校では、教頭や担当が地域の関係者（蛇浦漁協、村役場、地域の関係者、PTAのそれぞれに仲立ちや調整役がいます。）と連絡をとり、校内の職員会議での実施計画を確認後、文書等で情報を流していきます。

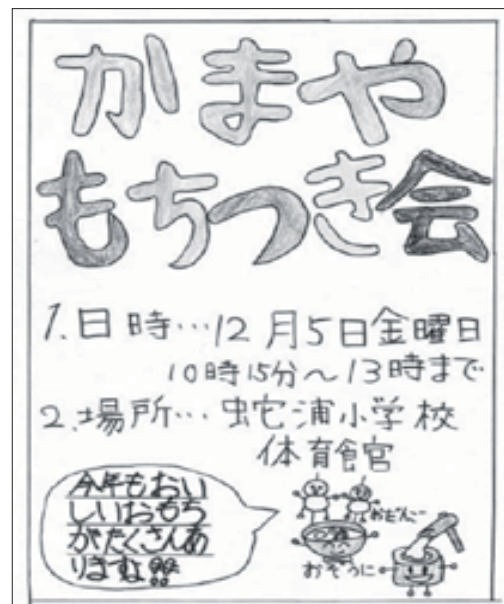
地域の方への連絡方法として、文書やチラシの配布の他、町内放送を通して呼びかけをしています。

運動会では、日頃の感謝や招待の意味を含め、地域内を鼓笛パレードで回り、学校に子どもや孫、親戚がいない方へのお誘いもします。

また、いろいろな行事を行う際には、地域の方へ子どもたちが手作りのポスターや招待状を出して、呼びかけもします。

＜12月の月上旬実施の『かまや餅つき会』を例に＞

- 11月下旬 {
  - ・子ども全員で、地域全戸への招待状づくり
  - ・全員で地域全戸に子どもの作った招待状と学校からの案内状を配布
- 12月上旬 {
  - ・参加申込みの締め切り
  - ・前日、保護者のお母さん方のお力をお借りして事前準備
  - ・『かまや餅つき会』当日



## ここが聞きたい お答えします

Q： 稲作、畑、ふのりなど、収穫したものはどのようにするのですか。また、収益があると思いますが、どのようにするのですか。

A： 畑でとれたものは炊事遠足や収穫祭で使ったり、学芸会で安く販売します。ふのりは漁協を通して販売していただき、収益につきましては、行事、クラブ活動等の児童の活動の助成の資金にしています。もち米は12月のかまや餅つき会で高学年の子どもたち

が話し合い創意工夫したお餅づくりをし、会食会で地域の方々とみんなで食べます。また、2月の同志社大学留学生との交流会のときにも餅つきをするのでそのときも使います。

Q： 地域の方のお力をお借り・連携するにあたり、学校担当者が頭を悩ませる場面があるとよく耳にしますがどうでしょう。

A： 学校の行事・活動ですが、地域の支援や地域の方々を巻き込んだ形で進めてきましたので、地域内に定着したものになっています。学校と地域が相互の信頼の上で継続してきて、現在があるので、当地域では、そのようなことは特に感じません。

## これまでのみちのり

### ☆ふのり採りの活動について

さかのぼれば戦前から学校のふのり採りが行われていたようです。

はっきりしているところでは、併設していた蛇浦中学校が昭和59年より2ヵ年文部省指定勤労生産学習研究校となり、親子ふのり採りをその中核に据えて実施しました。翌昭和60年9月蛇浦小中学校で文部省指定勤労生産学習公開発表でふのり採りの活動とその取組状況を発表しました。

平成5年10月蛇浦漁業組合の支援で磯体験学習漁場（ふのり浜）が完成し、少しずつやり方を変えながら、現在に至っています。

### ☆稲作の活動について

青森県では、農業者自らの創意工夫に基づく自主的な活動を推進し、地域における農業・農村の活性化を目的とした『青森フロンティア21農業・農村活性化事業』（平成7年～15年）を実施してきました。風間浦村でも、この県の補助金を活用し農家への栽培技術指導や農林業の後継者育成等を目的とする小学校の『稲作体験学習』『林業体験学習』を実施してきました。蛇浦小学校ではその事業の関連で『稲作体験学習』をはじめました。事業が終了した現在も大切な活動として継続実施しています。

### ☆学校畑の活動について

昔から畑自体はやっていましたが、現在のようなじゃがいもと大根を中心の作付けの形は、昭和60年の勤労生産学習公開発表のときからです。

マンネリ化しないよう要所要所でその在り方・進め方などを見直してきました。

## この活動を行って 成果・課題、そしてこれから

少子高齢化や日中仕事に出る方が増加し、地域の方々の学校行事への参加数が減少傾向の状況にあります。子どもたちの成長には、地域の方々の温かい見守りの目や支援が不可欠であることを、積極的に地域と関わっていく中で訴え、基盤を再構築していきたいと考えています。

地域連携では、子どもたちが頑張っている姿を見せるのが一番だと考えています。

